

④ バスターミナル東京八重洲第1期エリアの整備 ～国内最大級の高速バスターミナル～

受賞機関 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部

キーワード 国内最大級の高速バスターミナル、再開発ビルの地下に一体的なバスターミナル、東京駅から地下直結でのアクセス

全建賞審査委員会の評価ポイント

バスターミナル東京八重洲第1期エリアにおけるバス停集約化の取組。行政による調整制度がない課題に対して、多岐にわたる関係者が参加する会議体を組織し、整備方針、運用ルールの理解により、関係者の利害が一致した答えを得ることができた点や、地上道路の空間リソースを恒常的に使ってしまう路上バス停を、複数のブロックの再開発を総合的に調整して実施している点が評価された。

1. はじめに

令和4年9月、(独)都市再生機構(以下「UR」という。)が整備を進めている「バスターミナル東京八重洲」の第1期エリアが「東京ミッドタウン八重洲」(開発主体:八重洲二丁目北地区市街地再開発組合)の地下1、2階部分に開業した。今回整備した第1期エリアは3つの再開発事業に跨って整備されるバスターミナルの一部であり、第2期・第3期エリアの整備が完了して全て開業すると国内最大級のバスターミナルとなる。

2. 事業の概要

東京駅の八重洲側は、数多くの高速バスが乗り入れているものの、乗り場が駅前交通広場に入りきらず、周辺の道路上等にバス停が散在しており、利用者から「行先や停留所が分かりづらい」、「電車等との乗り換えが不便」、「待合スペースがない」といった声があった他、道路上での乗降による車道や歩道の交通への影響等の課題があった。

平成27年にバスターミナル整備の方針が正式に決定したことをうけ、URは学識経験者や行政機関等による「東京駅前・八重洲バスターミナル整備推進委員会」を



全体パース (第1期エリア～第3期エリア)

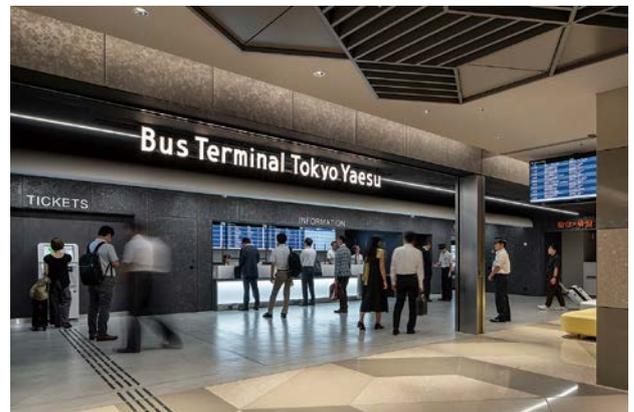
設置し、自ら事務局となり、八重洲側で同時期に検討された3つの再開発ビルの地下に一体的なバスターミナルを整備することや、そのバス移行の調整方針等を決定した。

バスターミナルは令和4年の開業に向けて、URが運営事業者の公募を行い、令和2年に「京王電鉄バス(株)」(以下「京王電鉄バス」という。)を選定した。京王電鉄バスは、URが再開発事業で取得した建物のバスターミナル部分の床を賃借し、バスターミナルの運営を行っている。

3. 事業の成果

第1期エリアは6バス(乗降場)を備えた高速バスターミナルとして令和4年9月に開業し、路上等に散在していた全体約1,200便のうち約550便の移行を含む、約600便/日(一部、コロナによる休便あり)のバスが発着する。

今回の整備により、東京駅から地下直結でのアクセスが可能になり、天候の影響を受けず、快適かつ安全にバスに乗ることができるようになった。また案内カウンターやパウダーコーナー・授乳室・物販施設等を設置しており、快適にバスをお待ちいただけるようになった。



第1期エリア 案内カウンター

4. おわりに

バスターミナル東京八重洲は、令和7年度に第2期エリア(7バス)、令和10年度に第3期エリア(7バス)が開業すると合計20バスとなり、1日当たり1,500便を超えるバスが発着する国内最大級の高速バスターミナルとなる予定である。運営事業者の京王電鉄バスと共に、国際都市東京にふさわしいバスターミナルを目指して整備していきたい。